

飛騨山脈・唐松沢雪渓の氷厚と流動

Ice thickness and flow of the perennial snow patch at Karamatsu-sawa in Hida mountain range

*有江 賢志朗¹、奈良間 千之²、福井 幸太郎³、飯田 肇³

*Kenshiro Arie¹, Chiyuki Narama², Kotaro FUKUI³, Hajime IIDA³

1. 新潟大学大学院自然科学研究科、2. 新潟大学理学部理学科フィールド科学人材育成プログラム、3. 立山カルデラ砂防博物館

1. Graduate School of Science and Technology, Niigata University, 2. Faculty of Science, Niigata University, 3. Tateyama Caldera Sabo Museum

福井・飯田（2012）と福井ほか（2018）は、近年の小型化かつ高性能化した観測機器を用いて、氷厚の実測と流動観測をおこない、飛騨山脈北部に分布する御前沢雪渓、内蔵助雪渓、三ノ窓雪渓、小窓雪渓、カクネ里雪渓の6つの多年性雪渓が現存氷河であることを明らかにした。北アルプス北部には、氷河調査がおこなわれていないが、氷河の可能性が高い雪崩涵養型の多年性雪渓がいくつか存在する。そこで、本研究では、7つ目の氷河の可能性が高い唐松沢雪渓の氷厚と流速をGPR観測とGNSS測量により測定し、唐松沢雪渓の氷河の可能性について検討した。その結果、唐松沢雪渓では約30mの氷厚と流動現象が確認できた。

キーワード：氷河、多年性雪渓、平衡線高度、GPR、GNSS

Keywords: glacier, perennial snow patch, equilibrium line altitude, GPR, GNSS